

# 2001 年度 経済学特別講義 : 期末試験

2001 年 7 月 9 日(月)実施

## < 解答・採点基準 >

### [第 1 問]

均衡における取引量を  $X$  とおくと、 $X=S=D$  であるから、

$$10+5X=150-2X$$

$$X=20$$

となる。これを供給曲線または需要曲線の式に代入すると

$$P=110$$

である。消費者余剰は需要曲線と価格 110 に挟まれた三角形の面積であるから、

$$\text{消費者余剰}=(150-110) \times 20/2=400$$

となり、生産者余剰は供給曲線と価格 110 に挟まれた三角形の面積であるから、

$$\text{生産者余剰}=(110-10) \times 20/2=1000$$

となる。社会的余剰は消費者余剰と生産者余剰の合計 1400 になる。

設定価格は  $110+50=160$  である。これを供給曲線に代入すれば、供給量がわかる。

$$160=10+5S$$

$$S=30$$

$D=30$  になるためには、消費者価格  $P_D$  を

$$P_D=150-2 \times 30$$

$$=90$$

とする必要がある。

消費者余剰は需要曲線と消費者への販売価格 90 に挟まれた三角形の面積であるから、

$$\text{消費者余剰}=(150-90) \times 30/2$$

$$=900$$

となる。また、生産者余剰は供給曲線と生産者からの買い取り価格 160 に挟まれた三角形の面積であるから、

$$\text{生産者余剰}=(160-10) \times 30/2$$

$$=2250$$

となる。生産者からの買い取り価格 160 と消費者への販売価格 90 の差額は政府の補助金となり、社会的な負担となるので、社会的余剰から差し引く必要がある。

$$\text{補助金総額}=(160-90) \times 30$$

$$=2100$$

したがって、社会的余剰は

$$\text{社会的余剰}=900+2250-2100=1050$$

である。

### [第 2 問]

(採点基準) 内国債の場合、国債は負債であると同時に国民の資産にもなっていること、外国債の場合、資産としての保有者が外国人であることを述べ、内国債は負債としての側面と資産としての側面が打ち消しあうため、国民の負担とならない可能性を指摘していれば正解。

(採点基準) 公債発行時点に生存している世代と増税を伴う公債償還時点に生存している世代が異なっている可能性を指摘していれば正解。

(採点基準) 遺産、贈与、社会資本などの世代間移転を伴うものについて説明していれば正解。1 つだけの場合 5 点。

**[第3問]**

限界消費性向が  $m$  であるから、政府支出乗数は  $1/(1-m)$  である。

$$1/(1-m)=4$$

より

$$4m=3$$

$$m=0.75$$

減税乗数は、

$$m/(1-m)=0.75/0.25=3$$

均衡予算乗数は常に 1。

または、政府支出乗数 - 減税乗数 = 1

政府支出乗数と均衡予算乗数の平均 2.5。

**[第4問]**

自然独占（採点基準）

独占に触れている・・・1点

市場に任せると自然に独占になることを指摘している・・・2点

規模の経済や固定費用について述べている・・・2点

合計特殊出生率（採点基準）

女性が一生に生む子どもの数である・・・3点

女性の年齢別平均出生数を同一時点で合計したものである・・・2点

全要素生産性（採点基準）

「技術」、「生産性」を表している・・・3点

投入要素の総生産への寄与を差し引いた残差である・・・2点

外部性（採点基準）

（以下のような記述があれば正解）

外部経済・外部不経済の具体例

対価を払って取引されない

市場の外部の取引

フロー（採点基準）

一定期間内の計測である・・・3点

経済活動量を表す・・・2点

（ストックと対比しただけの場合には1点）

**[第5問]**

消費の非排他性（共同消費の性質）

排除不能性（非排除性）

純粹公共財、準公共財、私的財

3つは5点、2つは3点、1つは1点。

ただし、具体例がない場合にはカウントしない。

過少供給、フリーライダーなど。具体例でも可。